

令和3年度関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築に関する調査・分析業務
業務実施報告書

提案 団体名	十勝シティデザイン株式会社
事業名	「リゾベーション型地域滞在」に基づく関係人口創出・拡大を目指す 「都市圏起点＋コミュニティホテル仮説型」中間支援モデル構築に係 る調査・分析業務
共同提案 団体名	十勝・帯広リゾベーション協議会
事業実施 地域	北海道帯広市及び近接する十勝振興局内の町村

1 事業概要・主な成果

1.1 事業概要

(1) 事業名

「リゾベーション型地域滞在」に基づく関係人口創出・拡大を目指す「都市圏起点＋コミュニティホテル仮説型」中間支援モデル構築に係る調査・分析業務（以下「本事業」という）

(2) ビジョン・テーマ

「リゾベーション型滞在」の普及を軸に関係人口の創出・拡大を実現すること

リゾベーションとは、リゾート、ワーケーション、イノベーションを組み合わせた造語であり、単に「東京での仕事を地方で行う」ことを超え、より積極的に地域・地方と継続的に交流し、新しい付加価値・事業・プロジェクトの創造を目指す「関係人口創出型」地域滞在モデルのことを言う。

(3) 本事業内容

「リゾベーション型滞在」の普及を実現するために、地域・地方側での取組に加え、都市圏側を起点とした中間支援を推進していく。具体的には、①リゾベーション型地域滞在に係る都市圏企業向けイベントの開催、②リゾベーション型地域滞在に係る都市圏企業向け体験ツアーの実施を中心に、提案団体である十勝シティデザイン株式会社が運営する本コミュニティホテル関連施設群を有効に活用し、「都市圏起点＋コミュニティホテル仮説型」の中間支援モデルに基づく事業実施と検証を行う。

1.2 主な成果

- (1) 本事業は、都市圏企業の経営者・所属従業員を主たる対象とし、企業経営の論理に基づく関係人口創設・拡大を目指す試みであるところ、中核となる都市圏企業向け体験ツアー（合計3回）に、当初想定（各回20名）を超える人数の参加を得られた。
- (2) 上記体験ツアー実施時のアンケート等により「リゾベーション型滞在」「都市圏起点」「コミュニティホテル仮説」という本事業のベースとなった3つの仮説の有効性を確認できた。
- (3) 上記体験ツアーの実施に際して、地域側の公的団体/事業者から様々前向きな協力（会場提供、講演実施、事業所見学の受入など）を得られ、地元メディアでも積極的な記事掲載等がなされた。
- (4) 本事業の趣旨に賛同する地元出身の大学生が、当該地域を拠点とした「スタディケーション」（都市圏側学生が当該地域にて学習体験を行うプログラム）普及活動を本事業として連携して行う流れが生まれた（当該学生の取組みが新聞で紹介され、地元農業生産者から事業協力の申し出がなされる流れまで生じた）
- (5) 本事業に対してUR都市機構より賛同を得られ、「関係人口」をテーマに当該地域と東京を結ぶ共同イベント（リアル）を東京側で開催（2021年10月6日）することができた。
- (6) 本事業で実施されたイベントや体験ツアーで生まれた出会いから、当該地域へ反復訪問する関係性の広がりが複数得られた。

2 モデル事業実施地域の概要と課題

2.1 事業実施地域の概要・課題

(1) 事業実施地域の概要

帯広市は、北海道東部の十勝地方のほぼ中央に位置する、人口約17万人の都市である。明治16年(1883年)に本格的に開拓がはじまり、碁盤目状の道路網など計画的な市街地形成が行われてきた。主な産業は、農業、商業で、十勝地方(約35万人、1市16町2村)の中心地であり、農産物集積地、商業都市としての役割を担っている。

十勝地域は長い日照時間、きれいな空気や水など、食料生産に恵まれた自然環境をもち、安全でおいしい農林水産物を豊富に生み出す日本の食料供給基地と言える地域である(2019年産農畜産物に係る十勝管内農協取扱高は3,549億円、これは他の都道府県と比べると都道府県第5位の宮崎県を上回る数字に相当する。また、食料自給率は1,240%にも達する。)

酪農のほか、広い耕地に機械を活用した大規模農業が発達し、大豆、小豆、甜菜、じゃがいもなどの有数な産地であり、「食」と「農林漁業」を柱とした経済活動を行うための旗印として「フードバレーとかち」を掲げ、オール十勝で地域の産業政策などを進めている。こうしたことは、食や農業関連企業(アグリテック/スマート農業を含む。)にとって、本地域が日本有数の魅力的な地域であることを示している。

(2) 事業実施地域の課題

他の多くの地方都市と同様、帯広市及び十勝地方は、以下に示す通り、人口課題に直面している。

課題① 少子高齢化	帯広市の総人口は、戦後増加傾向にあったが、2000年の17万3000人をピークに減少局面へ入り、2045年には14万9800人までの減少が見込まれる。 他方、65歳以上の老年人口割合は2015年の26.4%から、2045年には39.3%まで高まるものと予測されている。
課題② 東京&札幌への人口流出	帯広市の人口の社会動態は、東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)や札幌市へは転出超過の状況が続き、その規模は拡大してきている。 2018年の対札幌市の転出超過は574人(2014年は307人)、東京圏への転出超過は269人(2014年は252人)となっている。
課題③ 中心市街地の空洞化	中心市街地の人口は、1955年には全市人口の約22.4%を占めたが、市街地拡大により減少を続け、2000年には全市人口の約1.0%まで減少した。 その後、駅周辺で高層の分譲・賃貸マンション建設により増加に転じたが、近年は横ばい/微減傾向である。

上記人口課題は、①労働力人口の減少や地域経済の縮小、②税収の減少、③地域コミュニティの活力低下など、当該地域における未来の暮らしに対する不安や懸念の原因となっている。地域・地方に明るい未来の展望と活力を作り出す上で、これらの人口課題を根本的な解決する取り組みが不可欠である。

2.2 関係人口創出・拡大に関わる取組みのビジョン・テーマ設定

(1) 関係人口創出・拡大に関わる取組みのビジョン

【リゾベーション】=リゾートXワーケーションXイノベーション		
【リゾート】 十勝の強みである食体験、ネイチャーアクティビティ、温泉体験、帯広中心市街地でナイトライフ体験などを組み合わせた、エンターテインメント性の高い滞在体験を提供する。	【ワーケーション】 テレワーク/リモートワークの普及を活かし、仕事と観光の両方を充実させる滞在拠点を提供する。	【イノベーション】 都市圏の企業・生活者と地域・地方の資源/人材/企業などが相互に出会い・交流することで、新たな価値を創造する。

「リゾベーション」は、単に都市側で行ってきた仕事を地域・地方側に場所を変えて行うことにとどまらない。より積極的に、都市型生活者/企業が、地域資源・事業者・コミュニティと密接に関わり、地域・地方を拠点として新たな付加価値創造に主体的に関わることを目指すものである。そうして生まれた新たな付加価値を、大都市側の巨大市場に輸出しその対価を地域・地方側に還流させる。かかる取組みの成果を地域・地方側と都市型生活者/企業で分配することで「三方よし」の関係性が生まれ、関係人口創出・拡大に向けた取組みが長期に継続されるよう真に動機付けされることとなる。

「リゾベーション型滞在」の普及を軸に関係人口の創出・拡大を実現することで、都市生活者/企業と十勝・帯広地域との間で、「ヒト・モノ・情報」が相互に移動し合う継続的な関係性が生まれ、大都市圏と共存できる地域・地方の新しい持続可能な自立モデルを確立できる。十勝・帯広で「リゾベーション事業」を実現できれば、将来的には同モデルを全国の数多くの地域において広範囲に应用展開が可能となる。



(2) 関係人口創出・拡大に関わる取組みのテーマ

「都市圏起点+コミュニティホテル仮説型」の中間支援モデル

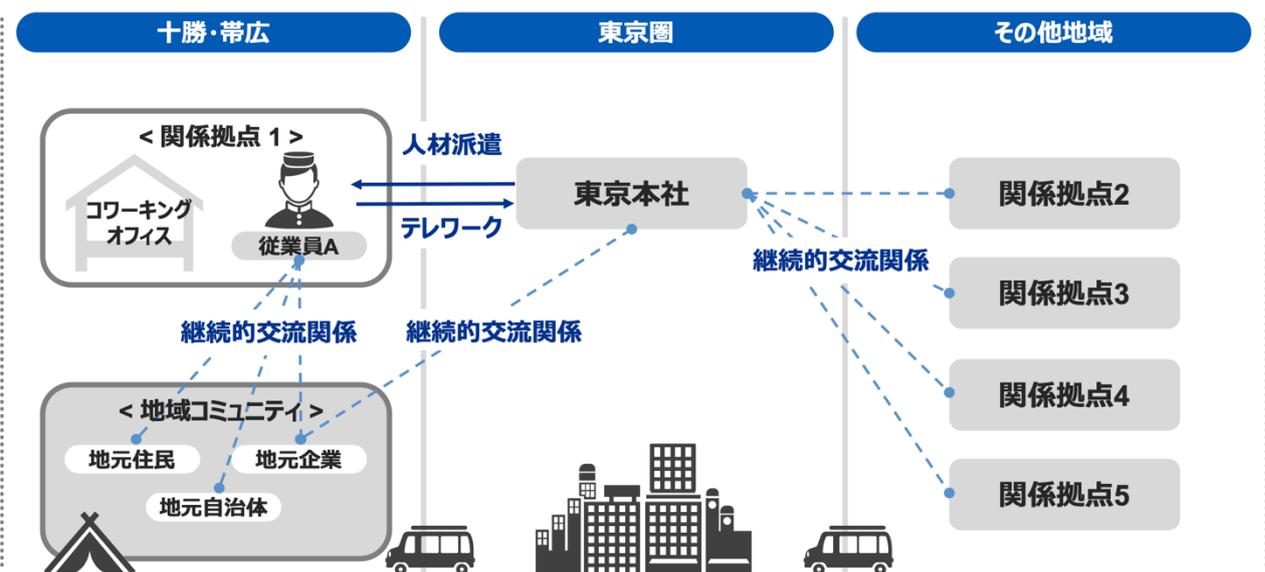
上記「リゾベーション型滞在」の普及を実現するために、我々は、地域・地方側での取組に加え、都市圏側を起点とした中間支援を推進していく。都市型企業側に寄り添う立ち位置でそれらの課題認識や将来動向を的確に把握し、提言やコンサルテーションを実施していくことが大きな鍵となる

からである。それにより、都市型生活者側の地域・地方を拠点とする働き方の選択肢として、地域側企業による雇用だけでなく、都市型企業によるテレワーク推進を前提とした雇用継続や新規雇用が増大すれば、関係人口の創出・拡大は本質的な飛躍を果たすことができる。

他方、地域・地方側での関係人口の受入に際しては、ホテルがもつ交流促進機能を活用して関係人口の定着・拡大を目指す。都市型生活者及び都市型企業による地域・地方での滞在は、ホテルを拠点として短期滞在から始まり、定着度合いが進むことで恒久的な居住拠点や事業所の設置に至る場合が多い。

都市の特質は多様な人材が交流し新しい事業や取組みが生まれる創造性に本質があるところ、多様な人が流動的に宿泊滞在する地域のホテルは、都市と相似形の特質を有している。かかる特質を活かし、地域のホテルに宿泊する都市からの宿泊者が、宿泊者同士で交流し、さらに地域側生活者とも交流することを促進するコミュニティホテル機能を地域のホテルが強化すれば、ホテルは地域内で都市類似の機能をもったクリエイティブ拠点となり、都市圏からの関係人口の定着・拡大に有意な役割を果たすことができる（以下「コミュニティホテル仮説」という）。

本事業においては、共同提案団体である十勝・帯広リゾベーション協議会（以下「本協議会」）に所属する企業等が有する都市型企業向けシンクタンク及びコンサルテーション機能に加え、提案団体である十勝シティデザイン株式会社が運営する本コミュニティホテル関連施設群を有効に活用し、「都市圏起点+コミュニティホテル仮説型」の中間支援モデルに基づく事業実施と検証を行う。



3 モデル事業の取組内容

3.1 取組みの全体像・スキーム

本事業の取組内容は以下の3つの取組項目を事業の柱とする。

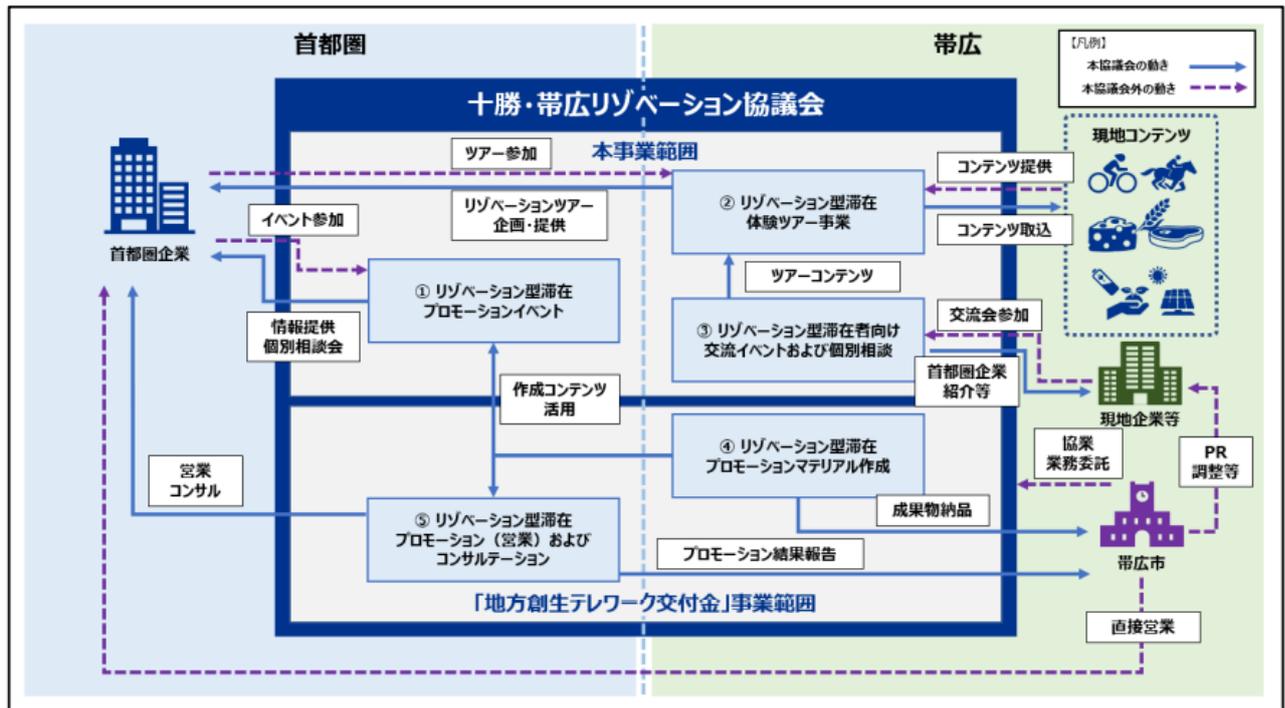
取組項目	取組内容
①リゾベーション型地域滞在に係る都市圏企業向けイベントの開催（都市圏起点型）	帯広市・十勝地域におけるリゾベーション型テレワークに係る意義・魅力・優位性などを東京などの大都市圏を拠点とする企業向けに紹介するイベント（リアル&オンライン）を企画・集客・運営する
②リゾベーション型地域滞在に係る都市圏企業向け体験ツアー（都市圏起点+ホテル仮説型）	東京などの大都市圏の企業が帯広市・十勝地域においてリゾベーション型テレワークを試験的に体験するツアー（リゾベーションツアー）を企画・集客・運営する
③リゾベーション参加者と地域居住者との交流イベントおよび個別相談会（コミュニティホテル仮説型）	帯広市・十勝地域でのリゾベーション型テレワークを開始した進出企業・滞在者・移住者が、より有意義なリゾベーション体験ができるように、本コミュニティホテル関連施設群を活用して、地域での交流イベントの開催や個別相談等の対応を行う

なお、本事業以外にも、帯広市は十勝 CD 社及び十勝・帯広リゾベーション協議会を事業委託先として、以下④及び⑤を内容とする「帯広・十勝を拠点とするリゾベーション型テレワーク推進事業」（以下「テレワーク推進事業」という）を行うため、内閣府「地方創生テレワーク交付金」の事業に採択されている。テレワーク推進と関係人口創設・拡大を目的とする本事業とが複合的かつ一体的に連動して、相互の事業における仮説検証を行う。

④十勝 CD 社が運営する本サテライトオフィス等（詳細は後述の通り）を拠点とした帯広市・十勝地域におけるリゾベーション型テレワークの意義や帯広市・十勝地域の魅力、優位性などを説明・紹介する情報コンテンツ（動画、写真、テキストなど）を作成し、下記⑤のプロモーション活動で使用するほか、インターネットや SNS を通じて発信する業務

⑤東京などの大都市圏の企業を対象に、個別訪問や面談、セミナー開催など（オンラインによるものを含む）によるプロモーション活動を行うとともに、リゾベーション型テレワークに興味・関心を抱いた企業に対して、帯広市・十勝地域におけるリゾベーション型テレワークの実施に向けたコンサルティングその他の支援を行う業務

参考資料：各事業の関連性



3.2 期待される効果

本事業の実施により、「リゾベーション型地域滞在」に基づく関係人口創出・拡大を目指す「都市圏起点+コミュニティホテル仮説型」中間支援モデルに関する様々な仮説の実証機会を得る効果を期待できる。検証仮説は以下の通り。

(1) リゾベーションの訴求力

「リゾベーション型地域滞在」という新しい視点で都市部生活者や企業が地域との関わりをもつ滞在提案が単なるワーケーション（都市圏と同じ仕事を地方で行うにとどまる意味）を上回る訴求力を有しうること。

(2) 企業側への働きかけ

都市圏生活者を雇用する企業側へ情報提供やコンサルテーション機能を提供することでより効果的な関係人口創設・拡大効果を発揮しうること。

(3) 都市圏起点型の取組

地域側からの取組みに加え、都市圏起点でプロモーション活動を展開することでより有効な訴求効果を発揮しうること。

(4) コミュニティホテル仮説

都市圏側からの訪問者に対して、コミュニティホテル仮説に基づき地域での体験演出を行うことで、地元生活者との交流効果の実効性が高まること。

(5) 価値創造機会の創出

都市圏側の訪問者が地域側の住人・企業・自然その他の地域資源に現地で触れることで価値創造機会が生まれること。

(6) 雇用機会の創出

都市圏企業による地域側労働者の雇用（オンラインでの労務提供）や地域側企業による（オンライン+副業での労務提供）が創出されること。

(7) 業務効率化の確保

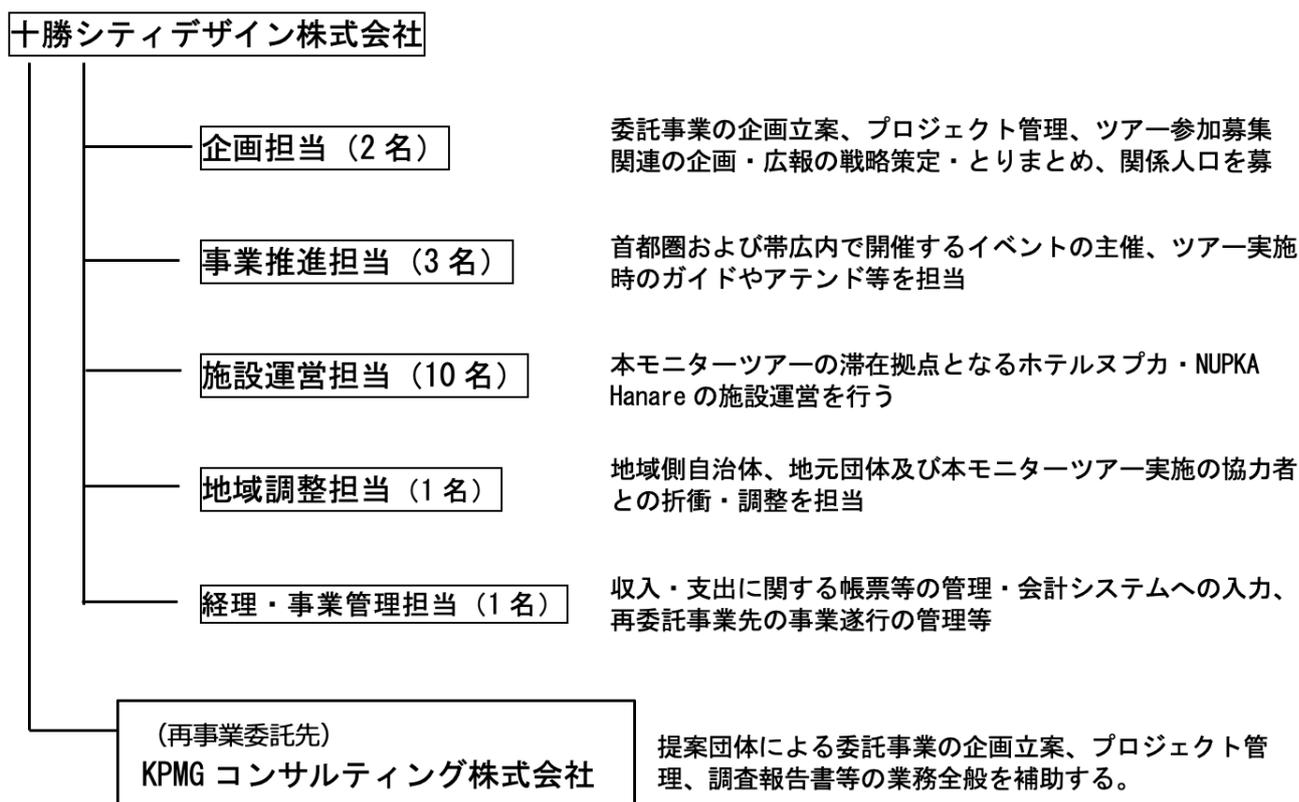
十勝・帯広での「リゾベーション型地域滞在」中、テレワークにより都市圏側の仕事の業務効率を下げることなく、低ストレス・快適に行えること。

(8) 経済合理性の確保

都市圏企業が、地域側での「リゾベーション型地域滞在」を継続的に推進することがオフィス費用の削減などを含めた経済合理性を高める効果を有すること（移動費用などの追加負担を含めても）。

4 事業実施に係る運営体制

4.1 事業実施体制



4.2 事業実施団体及び関係機関の役割

	名称	役割
1	ANA ホールディングス(株) ※プラチナくるみん取得	<ul style="list-style-type: none"> - リゾベーションツアー主催・プロモーション (オペレーション業務はグループ企業である ANA セールスに委託) - 羽田空港及びとちぎ帯広空港間の航空サービスの提供
2	KPMG モビリティ研究所/ KPMG コンサルティング(株) ※えるぼし(3つ星)取得	<ul style="list-style-type: none"> - 本事業全体の企画・運営を支援(事務局) - 本モニターツアーの移動課題に対する助言 - アンケートその他調査結果取りまとめおよび分析、最終報告書の作成
3	十勝バス(株)	<ul style="list-style-type: none"> - 十勝・帯広エリア内の移動手段提供、MaaS アプリ提供 - 本事業にかかる企画・運営支援およびコンテンツ提供
4	ジョルダン(株)	<ul style="list-style-type: none"> - MaaS アプリ活用を含む本事業にかかる企画・運営支援
5	(一社)大丸有環境共生型 まちづくり推進協会	<ul style="list-style-type: none"> - 首都圏で開催するイベント開催施設提供 - 本事業にかかる企画・運営支援
6	(株)電通	<ul style="list-style-type: none"> - 本事業にかかる企画・運営支援
7	帯広市(オブザーバー)	<ul style="list-style-type: none"> - 本事業に関する計画策定および実験結果分析時の協議参加 - 地元事業者および住民との協議・調整参加

予定 5 回に対し、実績 1 回

③ 現地側交流イベント・個別相談回の開催（帯広・十勝）

予定 5 回に対し、実績 2 回（7 月および 11 月のリゾベーション体験ツアー内に実施）

5.2 事業の広報・アプローチ

(1) イベント・体験ツアーへの集客活動

イベントおよびリゾベーション体験ツアーは、以下の方法で集客を行った。

- ① イベントチケット販売サイト（Peatix）での告知
- ② 本協議会の SNS（Facebook）での告知
- ③ 本協議会企業から直接の勧誘

イベントおよび体験ツアー参加者の多くは、③リゾベーション協議会企業から直接の勧誘による集客であった。「リゾベーション型滞在」が個人ではなく企業をターゲットとした概念であることから、企業から企業への勧誘が有効であり、集客効率としては極めて高い結果となった。

(2) メディア

提案団体と地元メディア等は、コミュニティホテル運営の実績により、事業取組に対する継続的な信頼関係が確立されている。本事業に関しても、イベント開催やリゾベーション体験ツアーの実施時に、地元メディア等に対して事前の情報提供を行い取材の働きかけを行った。その結果、以下メディアで取り上げられ、地元十勝・帯広側へ「首都圏企業が十勝・帯広への進出へ関心があること」の周知にも繋がった。

- ① 現地協力者への説明会開催（2021 年 7 月 15 日開催）
 - (ア)十勝毎日新聞 2021 年 7 月 16 日
- ② ツアー説明イベント（リアル）（2021 年 8 月 31 日開催）
 - (ア)静岡放送（テレビ） 2021 年 9 月 2 日
 - (イ)静岡新聞 2021 年 9 月 2 日
- ③ 第 2 回リゾベーション体験ツアー
 - (ア)十勝毎日新聞 2021 年 9 月 25 日
 - (イ)北海道新聞 2021 年 9 月 28 日
- ④ ツアー説明イベント（リアル）（2021 年 10 月 6 日開催）
 - (ア)十勝毎日新聞 2021 年 10 月 7 日
- ⑤ 第 3 回リゾベーション体験ツアー
 - (ア)十勝毎日新聞 2021 年 11 月 23 日

5.3 活動内容①

リノベーション型地域滞在に係る都市圏企業向けイベントの開催（都市圏起点型）

イベント名（開催日）	内容
旅のはじまりナイト（オンライン）十勝・帯広リノベーションツアーのご案内（2021年6月18日）	①NUPKAが考えるアフターコロナの新しい「働き方」「暮らし方」 ②転換点を迎える「東京一極集中」と「地方創生」の新しい方向性 ③十勝・帯広での「リノベーション滞在」は何か楽しいのか？ ④「十勝・帯広リノベーションツアー（第1回）」のご紹介 ⑤滞在拠点となる「NUPKA Hanare」（2021年4月オープン）のご紹介 <申込者数オンライン38名>
人口減少社会のデザイン-地域分散社会の実現に向けた十勝・帯広発での挑戦（オンライン+リアル開催）（2021年7月15日）	①広井良典京都大学こころの未来研究センター教授のご講演 ②十勝シティデザインの取組紹介 <申込者数リアル10名+オンライン77名>
旅のはじまりナイト（オンライン）@静岡県松崎町-北海道・十勝原野開拓の先駆地から令和時代の新しい地域発イノベーション創出を考える&第2回リノベーション体験ツアーのご紹介（2021年8月31日）	①HOTELNUPKAの取組み及び「十勝・帯広リノベーション体験ツアー（第2回）」のご紹介 ②帯広と松崎町の関係と明治期の依田勉三に関するストーリー ③十勝・帯広における新しいイノベーション創出トークセッション <申込者数オンライン72名>
旅のはじまりナイト@クラフトビレッジ西小山（東京開催）（2021年10月6日）	①十勝・帯広での関係人口創設・拡大の取組み紹介（byHOTELNUPKA） ②十勝・帯広を拠点としたヨルダン様/ヨルテ様の取組事例 ③クラフトビレッジ西小山と都市圏側で関係人口支援の取組み（byUR都市機構） ④「十勝・帯広」動画上映セッション ⑤第3回十勝・帯広リノベーション体験ツアーのご案内 ⑥「歓談・ミートアップ」セッション -十勝・帯広から届くローカルフードと共に <申込者数 リアル50名>
十勝・帯広リノベーション体験ツアー事前イベント（オンライン）（2021年11月4日）	①バイオマス都市構想帯広市の事例紹介（by帯広市経済企画課） ②バイオマス・脱炭素の取り組みの世界動向（byKPMGコンサルティング） ③第3回十勝・帯広リノベーション体験ツアーのご案内 <申込数 オンライン28名>

FY2021					
6月	7月	8月	9月	10月	11月
	▲7/8-10 1回目ツアー		▲9/24-27 2回目ツアー		▲11/11-13 3回目ツアー
第1回ツアー		第2回ツアー		第3回ツアー	
<p>【プロモーションイベント】 旅のはじまりナイト十勝・帯広リノベーションツアーのご案内</p>  <p>【第1回ツアー】 地域の暮らしヘディブ・ダイブ</p> 		<p>【プロモーションイベント】 松崎町オンラインイベント 3x3LabFutureハイブリッドイベント</p>  <p>【第2回ツアー】 イノベーション創出ベンチャーマッチング 札幌・帯広</p> 		<p>【プロモーションイベント】 セミナー：バイオマス都市構想帯広市の事例紹介 セミナー：バイオマス・脱炭素の取り組みの世界動向</p>  <p>【第3回ツアー】 十勝帯広の自然資源を活かしたカーボンニュートラル体験</p> 	

5.4 活動内容②

リゾベーション型地域滞在に係る都市圏企業向け体験ツアー（都市圏起点+ホテル仮説型）

(1) 体験ツアー全体像

毎回テーマを変更し、計3回の体験ツアーを実施し、延べ40社、89名が参加した。

(2) 第1回体験ツアー

- ① テーマ 地域の暮らしへディープ・ダイブ
- ② 日程 2021年7月8日（木）から7月10日（土）
- ③ 参加者 個人参加を含め15名
- ④ 概要 様々な施設でのテレワーク体験/ 地元企業訪問 / 地元の人々との交流会などを実施
- ⑤ 詳細（動画 URL: <https://youtu.be/oGnP2jpGAGk>）

訪問先	実施状況
テレワーク体験@NUPKA・LAND	3か所のコワーキングスペースで各々テレワークを実施（さっそくチーム会議を行う人、個室ワークブースでオンライン会議を行う人も） 地方においても首都圏同様に仕事ができることを体感
テレワーク体験@丸美が丘温泉	首都圏では稀な温泉付きコワーキングスペースでのテレワークを体験
帯広商工会議所	「夏になるとバッタが繁殖する、そこに豊かな土地があるはず、という信念のもと海側から内陸へ進出した」「最初から恵まれた土壌ではなかった、人々の努力によって農業に適した土地となった」などの十勝の人々のフロンティアスピリットに関するお話を拝聴
帯広市役所（経済部商業労働課）	ワーケーションの課題について、帯広市とディスカッションを実施
テレワーク体験@フェアリンドルフ	グランピング施設でテレワークを体験 普段とは異なる環境での作業がリフレッシュに繋がったとの意見も多数
とかち井上農場	十勝の広大な土地・空を体感 十勝従来「量産」ではない「手間暇かけて付加価値」の農業を実現した雪蔵熟成じゃがいもの熟成庫を見学
大空団地	十勝バス・大空団地による地域活性のための取組み内容を聞き、活用可能性のディスカッションを実施
馬車BAR体験 交流会@NUPKA	地元の方々も参加し、各々交流を実施 急遽帯広市と参加者による馬車BAR内での会議も開催され、地方創生企画を検討



(2) 第2回体験ツアー

- ① テーマ イノベーション創出ベンチャーマッチング帯広・札幌
- ② 日程 2021年9月24日（金）から9月27日（月）
- ③ 参加者 企業参加を中心に41名
- ④ 概要 地元企業・参加企業間のビジネスマッチング/企業等訪問 /テレワーク体験など
- ⑤ 詳細（動画 URL: https://www.youtube.com/watch?v=L_heFlmTtPQ）

イベント・訪問先	詳細
帯広・十勝エリアベンチャーピッチ ・Fant ・Koya.Lab ・いただきますカンパニー ・AirShare	現地側企業のみならず、首都圏側参加企業からも事業プレゼンを行い、現地ビジネスチャンスについて活発な議論を行う 地元資産を活かしたビジネス展開を行う企業が多く、十勝の資産の豊富さを感じられた場となった
大樹町インターステラ	大樹町から世界へ向けた大きなチャレンジを行う企業を訪問 ロケット打ち上げ現場等を見学
とかち井上農場	十勝従来の「量産」ではない「手間暇かけて付加価値」の農業を実現した雪蔵熟成じゃがいもの熟成庫を見学 雪蔵熟成じゃがいも生産を行うことで得られたメリット（消費者の声）について
上川大雪酒造 麦音（パン屋）	フードバレーとかちを感じられる地元のお店を訪問
ロイヤルパークキャンパスホテル札幌視察	国産木材（主に北海道産カラマツ）を活かしたホテルの見学
札幌エリアベンチャーピッチ ・AWL ・Aill ・キタモビ ・調和技研	地元資産活用が多い十勝に比べ、IT・AI企業が主となり、都市部の特色を感じられた 首都圏側参加企業からも事業プレゼンを実施



(2) 第3回体験ツアー

- ① テーマ 十勝帯広の自然資源を活かしたカーボンニュートラル体験
- ② 日程 2021年11月11日(木)から11月13日(土)
- ③ 参加者 企業参加を中心に33名
- ④ 概要 カーボンニュートラルをテーマ / 関連施設訪問等 / グループ議論等
- ⑤ 詳細 (動画 URL: <https://youtu.be/HM3K0c00QDQ>)

イベント・訪問先	詳細
十勝バイオマス都市構想講義 (帯広市)	最初に認定された十勝・帯広での取り組み、課題をINPUT
研究内容特別講義 (帯広畜産大学)	十勝ならではの大学研究シーズをINPUT <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯広畜産大学のオープンイノベーションを目指した取組み (産学連携センター 特任准教授 東陽介) ・ 持続的畜産業実現に向けた未利用資源を活用した牛などの家畜用飼料への応用 (生命・食料科学研究部門 教授 西田武弘) ・ 自然と調和した農林水産・食・Well-being (産学連携センター 特任教授 宮下和夫)
スタディケーションの取組みプレゼン (スタディケーション学生)	首都圏学生が休学中に十勝でインターンを行うスタディケーションについて、活動内容や今後の展望をINPUT
鹿追町環境保全センターバイオガスプラント	バイオガスプラント内施設見学 バイオガス活用における課題をヒアリング
広瀬牧場ウエモンズハート	普段食している牛肉、牛乳ができるまで、一酪農家として取り組んでいる持続可能な取組みなど、酪農の現実をヒアリング
地元で活動している組織の紹介	とちか熱中小学校、一般社団法人十勝スタイル、とちか財団
浦幌町TOKOMUROLab訪問	フォレストデジタル社のデジタル森林浴体験 パトンプラス社の地元カラマツを使用した木材製品工房を見学
グループディスカッション・プレゼン	業種の異なるメンバーが集まり十勝・帯広のニーズ・シーズ、そこから導き出せる事業アイデアをディスカッション 短時間であったにもかかわらず、実現可能性の高い事業アイデアも生まれるなど、参加者同士でも有効なコミュニケーションが生まれ、効果的なネットワーキングの場となった
地元の人/参加者間の交流・懇親会	地元の方々も参加し、各々ネットワーキングを実施



5.5 活動内容③

リゾベーション参加者と地域居住者との交流イベントおよび個別相談会（コミュニティホテル仮説型）

第1回ツアー、第3回ツアーの中で実施したため、詳細は「5.4 活動内容②」を参照。

6 モデル事業としての成果検証

6.1 事業成果（目標達成状況）

本事業の柱となる以下の2点について事業成果を得ることができた。

(1) 都市圏企業向け体験ツアーへの参加者獲得

都市圏から北海道まで約1000キロ離れた移動を伴うツアー（移動費・宿泊費は参加者負担）であるため、大前提となるツアー参加者獲得が大きな課題であったが、本協議会会員による直接勧誘の効果により、当初想定（各回20名×3=60名）を大きく上回る合計89名の参加を得ることができた。詳細は5.4 活動内容②に記載の通り。

(2) 事業仮説に対するアンケート回答

事業計画時に定義した「リゾベーション型地域滞在」に基づく関係人口創出・拡大を目指す「都市圏起点+コミュニティホテル仮説型」中間支援モデルに関する仮説の検証は全3回の体験ツアー参加者へアンケートを実施することにより行った。参加者89名のうち、59名からアンケート結果を回収した。当該アンケート等により「リゾベーション型滞在」「都市型起点」「コミュニティホテル仮説」という本事業のベースとなった3つの仮説の有効性を確認できた。

その他の事業仮説を含め、当該アンケート結果の概要は以下の通りである。

【検証結果】

	検証項目	目標	検証結果/達成・未達成理由
1	リゾベーションの訴求力	「リゾベーション型地域滞在」に関心を持つ都市部住民/企業の割合が50%を超える	「リゾベーション型地域滞在にメリットがある」と回答したのは 100% 特に新規事業開発促進への関心が高く、国や自治体等による政策支援への期待も高い
2	企業側への働きかけ	企業側への情報提供やコンサルティング機能の提供が有効であると考える都市部住民/企業の割合が50%を超える	「関係人口創設のために首都圏企業側への働きかけが有効である」と回答したのは 100%

3	都市圏起点型の取組	都市圏起点でのプロモーション活動が認知度や信頼性の観点で有効性が高いと考える都市部住民/企業の割合が50%を超える	自治体による <u>補助金制度</u> や現地（企業・自治体含む）での <u>地元人材・企業の紹介、交流機会</u> が関係人口創設の後押しとなる
4	コミュニティホテル仮説	コミュニティホテルを拠点とした滞在により滞在中の交流効果が高まったと考える都市部住民/企業の割合が50%を超える	「滞在拠点となったコミュニティホテルでの滞在が地元交流や地域の体験に有効であった」と回答したのは 86% 参加者は <u>滞在者や他者同士のコミュニケーションの場</u> を求めており、コミュニティホテルが有効といえる ホテル機能だけではなく体験演出（体験ツアー）が地元を知る・好きになるきっかけづくり、テレワークを含む現地での暮らしや地元企業との協業イメージを持つことに繋がっている
5	価値創造機会の創出	地域滞在中に価値創造機会が生まれた/生まれる可能性が高いと考える都市部住民/企業の割合が50%を超える	「現地で訪問した企業の事業に関心を示し、今後も関わりたい」と回答したのは 98% 実際の体験が今後の <u>現地での事業展開の可能性</u> に繋がっているといえる
6	雇用機会の創出	都市圏企業による地域側労働者の雇用（オンラインでの労務提供）や地域側企業による（オンライン＋副業での労務提供）に関心を示す都市部企業/地域側企業の割合が50%を超える	「地方での雇用が有用と感じている」と回答したのは 53% 各組織責任者の割合が多かったため、新事業とあわせにおける地方雇用にも興味があるという結果が得られた 現時点で不明、もしくは有用と感しない理由としては、 <u>地方人材のポテンシャル（スキル等）が不明</u> であることが挙げられる <u>地方側の受入れ体制の強化（人材紹介機能等）や継続的な交流機会提供</u> が必要と想定される
7	業務効率の確保	「リゾベーション型地域滞在」時の業務効率（都市型オフィスでの執務に比べて）が上がったと考える都市部住民/企業の割合が50%を超える	「業務効率が上がった・もしくは上がる」と回答したのは 29% にとどまった 「都市部と同程度の業務効率」という回答を含めると 85% となる 普段からテレワークが前提の業種・職種が多くなり、場所を変えても普段の効率と同程度という回答が多く得られた

			<u>通信セキュリティへの懸念、通信インフラ、設備(コピー機・モニター等)の不足</u> が効率低下の要因として挙げられる
8	経済合理性の確保	「リゾベーション型地域滞在」によりオフィス費用の削減などを含めた経済合理性を高まると考える都市部住民/企業の割合が50%を超える	「経済効果が得られると感じる」と回答したのは <u>39%</u> にとどまった 経済的效果を感じる理由としては、新規事業開発可能性があることが挙げられる 一方、経済効果を得にくいと感じる、もしくは、現時点では不明である理由として <u>テレワーク可能なIT環境を作ること、情報管理や労務管理などの対応</u> が必要になるといったテレワーク上の課題が挙げられる

6.2 事業成果（関係人口の地域とのかかわり方）

- (1) 都市圏企業向け体験ツアーの実施に際して、地域側の公的団体/事業者から様々前向きな協力（会場提供、講演実施、事業所見学の受入など）を得られ、地元メディアでも積極的な記事掲載等がなされた。
- (2) 本事業の趣旨に賛同する地元出身の大学生が、当該地域を拠点とした「スタディケーション」（都市圏側学生が当該地域にて学習体験を行うプログラム）普及活動を本事業として連携して行う流れが生まれた（当該学生の取組みが新聞で紹介され、地元農業生産者から事業協力の申し出がなされる流れまで生じた）
- (3) 本事業に対して UR 都市機構より賛同を得られ、「関係人口」をテーマに当該地域と東京を結ぶ共同イベント（リアル）を東京側で開催（2021年10月6日）することができた。
- (4) 本事業で実施されたイベントや体験ツアーで生まれた出会いから、当該地域へ反復訪問する関係性の広がりが複数得られた。

6.3 事業成果（その他）

当初計画時における事業成果以外に以下の活動が発足し、「リゾベーション型滞在」の認知向上の効果があったといえる。

- ① 十勝内他地域でも同様のリゾベーション体験ツアーが企画されており、自治体と現地企業が具体的な実施に向けて準備中である
- ② 十勝外地域の宿泊施設事業を行っている企業も同事業の展開可能性を探っており、リゾベーション協議会企業と月1回の議論を行っている
- ③ 北海道庁が発行する「創る Web 第17号(令和3年10月発行)」に北海道のワーケーション事例都市として掲載され、北海道庁と帯広市の連携強化にも繋がった

6.4 本年度の課題と対応

	本年度の課題	対応の方向性
1	「コロナ禍」の影響により計画していた事業のいくつかの実施を断念せざるを得なかった。	「コロナ禍」の終息を待ち、今期できなかった事業を何らか将来の実施に繋げていく。
2	本事業は、都市圏企業の経営者・所属従業員を主たる対象と法人をメインターゲットとしたが、ワーケーションやテレワークの採否に関する決定権限等を有する経営者や経営管理部門等の参加者は限られた。	「リゾベーション滞在」推進活動を継続することで認知度を高め、より多くの意思決定権者との関係性を構築できるよう務める。
3	上記2に関連して、都市圏企業の事業部門側からの参加者の割合が高くなったが、それらの参加者は「新規事業の可能性」に関する高い関心を示した。しかし、地域側からの個別・具体的な事業誘致への発信や取組みは限られた。	当該地域における「地域資源」が、都市圏側企業にどのような新規事業をもたらさうかを受け身で待たずに積極的に調査・研究し、戦略的に発信していくよう、地域側での取組や働きかけを行っていく。
4	(東京の仕事を地域側で行う意味での) ワーケーション滞在は、全国の地域で誘致活動がなされるレッドオーシャン(=競争過多)であり、同一土俵の競争では十勝・帯広は首都圏から遠く知名度や費用負担の点でも不利となる(東京圏への通勤も可能な近郊の地域と比べて)	新規事業の創出と連動した「リゾベーション型」の地域滞在の意義、メリット、今後の可能性の広がりを明確にし、継続的に発信していく。
5	イベント・ツアーの参加者が関係人口候補となるが、協議会 & 参加者といった繋がりには継続出来ているものの、参加社同士のネットワーク継続のためのコミュニケーション手段が確立していない	参加者同士のコミュニケーション手段・仕組みを検討・提供していく。

6.5 今後の事業のあり方

本事業は、都市圏企業の経営者・所属従業員を主たる対象とし、企業経営の論理に基づく関係人口創設・拡大を目指すところに特徴がある。企業向けの関係人口創出にフォーカスすることで、個人の趣味・嗜好に左右されない安定的な拡大を目指すことができ、また企業の事業予算や投資資金などが連動すれば、当該地域の経済や社会に対して、さらに関係人口のあり方そのものに対してポジティブかつ重要な影響を生じさせることが可能である。

そのような狙いで実施された本年度の事業、特に都市圏企業向け体験ツアー実施により明確となったことは、企業側の「地域における新規事業機会」の可能性への関心が高い点である。今後の事業の意義を高めるためにも、当該関心項目に関する地域側からのメッセージを明確化・具体化することが重要である。当該地域の地理・歴史・経済構造・地域資源などを具体的に踏まえた上で都市圏側企業との相互補完による価値創造のシナリオを示すことが鍵となる。

今後に向けた上記取組みは、国や地方自治体などの公的団体のみが行うものではなく、民間事業者が

主体となり経営としての自立性を確保しながら継続することが最も望ましい。提案団体である十勝シティデザイン株式会社は、ホテル事業がメインであるため、コンシェルジュ機能の拡大として、ツアー事業を主体的に実施する基盤とメリットを有する。ただし上記改善を実施する上では単独のリソースでは足りず、地域関係者や学生、また都市圏企業側との幅広い連携が必要となる。

地域の未来のあり方に関する共通認識を高め、アカデミアも含めた産官学のよりダイナミックな連携のあり方を着実に積上げていくことが鍵となる。このような一連の取組みはトライ＆エラーの継続であり、大事なのは未来に向けての歩みを止めないことである。中長期の取組みを基本型とし、その中で有効な（または有効でなかった）事業仮説を選別し、意味のあるものを未来に繋いでいく。そしてそのような取組みの成果を、他地域を含め全国で共有しながら全体としての行動の最適化を図っていくプロジェクトモデルが重要となる。

7 自立化・自走化の検討

7.1 自立化・自走化の検討

(1) 事業性

今回実施された「リゾベーション型地域滞在に係る都市圏企業向け体験ツアー」（合計3回）は、十勝・帯広までの渡航費と滞在費を参加者各自で負担する条件で募集されたが、コロナ禍の困難な環境下にも関わらず延べ89名の参加を得ることができた。「リゾベーション滞在」のコンセプトと密度の濃いツアー企画があれば遠距離でも集客可能なことが実証されたといえる。今後に向け様々な工夫を加えた上で事業としての自立化・自走化は可能と考える。

(2) 今後の改善項目

本事業年度の体験ツアー実施で明確となったことは、企業側の「地域における新規事業機会」の可能性への関心が最も高い点である。今後の事業自立化・自走化、そして事業の意義を高めるためにも、当該関心項目に関する地域側からのメッセージを明確化・具体化することが重要である。当該地域の地理・歴史・経済構造・地域資源などを具体的に踏まえた上で都市圏側企業との相互補完により新たに生まれる価値創造のシナリオを示すことが鍵となる。

(3) 運営体制

ホテル事業を運営する当社は、コンシェルジュ機能の拡大として、ツアー事業を主体的に実施する基盤とメリットを有する。ただし上記改善を実施する上では当社単独のリソースでは足りず、地域関係者や学生、また都市圏企業側との幅広い連携が必要となる。当該連携を継続可能とするWin-Winな事業スキームの構築が鍵となる。

8 他地域への横展開の可能性の検討

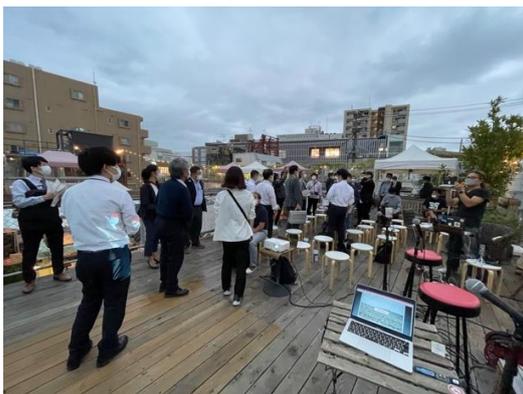
8.1 他地域への横展開の可能性の検討

(1) 横展開の意義

今年度実施した①集客イベントの参加状況、②ツアー参加者の数、③アンケート内容からは、当該事業の3つ仮説である「リゾベーション型地域滞在」「都市圏起点」「コミュニティホテル滞在」は、いずれも有効であったと当社は結論付けた。当該仮説を更に精緻なものとし（特に地域における新規事業機会の明確化）、かつ他地域毎の強みや課題の克服を行うことで、当社が実施した事業を他地域へ横展開することは可能かつ有意義であると考えます。

(2) 横展開に向けた事業スキーム

「横展開」を実現する上で、単なる資料ベースでケーススタディの紹介等を行うだけでなく、十勝・帯広地域と他地域との双方向的な交流や意見交換が有意義である。その際、オンライン技術を活用することに加え、実際に「リアル」に会って話をしながら相互理解と熱量を共有することが有意義であり必要である。本年度は、2021年10月6日に西小山クラフトビレッジ（東京）で、UR都市機構/株式会社ピーエイと連携し、リアルイベントを共同開催することができ、そこでの出会いから継続的な十勝・帯広への訪問/関係人口創出の実績が生まれている。



かかる「リアルに会う」機会を更に創出・拡大するために、「ホテルが旅をする」の考え方で、当社が全国の地域を訪れ「旅のはじまりナイト」を現地事業者と協働開催する事業スキームを今後計画していきたい。

(3) プログラム連携先/地域

当社及び十勝・帯広リゾベーション協議会会員企業が関係性を有する他地域の事業者を軸に、全国47都道府県内で共同イベントを開催する。当該イベントを起点に継続的なオンライン協議や相互訪問の機会を作り、成果や課題の共有、更には共同での取り組みなどを発展させ、関係人口の広がりを全国で創り出していく。